

パブリック・サービス研究分科会

講義年月日 2009年4月20日(月) 午後1時30分～2時30分

講演者 慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス事務長 加藤好郎氏

テーマ 「図書館クラスターを構成する概念の検討：経営学を中心としたアプローチ」

講義内容

はじめに

2003年、イギリスが図書館と文書館、博物館を一つの集合体としてスタートした。

→ ライブラリアン10の機能と5つの主題

- ・ Director
- ・ Bibliographer
- ・ Archivist
- ・ System Librarian
- ・ Curator
- ・ Electronics Librarian
- ・ Cataloger
- ・ Reference Librarian
- ・ Digital Librarian
- ・ Serials Librarian
- ・ 科学
- ・ 医学
- ・ 法律
- ・ ビジネス(経済・経営)
- ・ 歴史

今日のお話

産業クラスターから図書館クラスターへの提案

クラスターとは、本来はブドウの房を意味するが、現在では、その意味が転じて集団を意味する言葉に発展してきている。

産業クラスター計画とは、地域の中心企業が大学の機関等と共有して、IT、バイオ、環境、ものづくり等の核となる産業が中心となって産業クラスターの競争力を高めていく計画である。その考え方を図書館発展のためのトリガーとして図書館クラスター実現の可能性、あるいはそれ以前として、研究対象としての産業クラスターが、図書館経営論として成立するかを模索してみる。

1. 産業クラスターの目的とミッション

- ・ 産業の国際競争力強化は地域経済の活性化を図り、新しい産業・事業を創出することを目的とする。
- ・ イノベーション(革新)を促進する事業環境の整備、「新経済成長戦略」等の国家戦略上の重

要分野としての新産業の創出と地域自治体等が実施する地域振興との連携による相乗効果の創出。

2.ポリシー

- ・ 全国一律かつ中央統制的な施策の運営方法を改め、現場での施策展開を大事にする。
- ・ コアとなるネットワークの形成に関する固有のツールの確保と開発支援、企業連携支援、販路開発支援、人材育成支援。

3.究極的目標

- ・ イノベーションの連鎖反応。
- ・ 産業の最適化と環境変化耐性強化。
- ・ 地域の国際ブランドの進展に伴い世界中からの企業、人材、投資の求心力の増大。

4.クラスター政策のライフサイクル

- ・ **I期 2001～2005** （産業クラスターの立ち上げ期）
国が進めるクラスター計画プロジェクトとして 20 程度を立ち上げ自治体が独自に進めるクラスターと連携しつつ基礎となる「顔の見えるネットワーク」を形成する。
- ・ **II期 2006～2010** （産業クラスター成長期）
ネットワーク形成を推進させ具体的な事業展開を行い同時に企業の経営革新、ベンチャーの創出、プロジェクトの見直し、新たなプロジェクトの立ち上げも行う。
- ・ **III期 2011～2020** （産業クラスターの自律的発展期）
ネットワーク形成と具体的な事業展開を更に推進し活動の財政面での自立化、実質的な発展を目指す。

5.図書館クラスターとは

- ・ 一定の分野で相互に関連する図書館と類縁機関が、一定地域への集積戦略であり、図書館クラスターとは、図書館を中心とした「図書館集積」ではなく、そのことを推進する他の機関をも幅広く含むもの。
- ・ 競争しつつ協調している。
競争はイノベーションを誘発し、ネットワークが連携関係であるのに対し、「図書館クラスターは」は競争関係を内包している点が異なる。企業と図書館のマーケティング。
- ・ シナジー効果（相乗効果）が発揮されている。
主体が単に存在するだけでなく、主体館に一定の関係があり、その関係の中でイノベーションが促進されている。各種図書館の特徴。

6.図書館クラスターの効果

- ・ 生産性の向上

集積による効果は「外部経済・環境」として古くから認識されている。

図書館クラスターについては、専門性の高い投入資源（人的資源）、情報アクセス、補完性、各種機関や公共財（公共図書館、学校図書館）へのアクセスなどにより、生産性が向上する。

- ・ イノベーション（革新）の誘発

図書館クラスターは、イノベーションを誘発し、クラスター内では、ダイバスティーにより、新しい顧客ニーズの把握や新しいサービス等の実験が容易であり、競争による刺激などの効果があがる。

7.図書館クラスターの形成を促進する要因

- ・ 地域独自の資源

強み（特徴）のある独自資源があることで、イノベーションの機会が生まれ、地域資源とは、研究開発機能の集積、技術水準、人材集積、自然条件など様々である。

- ・ 厳しい需要条件

先進的なユーザーがイノベーションを推進することが多い（リード・ユーザー・イノベーション）

- ・ 革新的事業がある

革新的事業は地域におけるゲートキーパーの役割を果たし、外部の有益な情報を導入することでクラスター形成を刺激する。

- ・ 関連・支援産業の存在

すぐれた関連・支援産業あるいは機関があり、地域システムにおけるネットワーク型連結の意義もある。

8.図書館クラスターを活性化する要因

- ・ 学習が存在する

既存の枠組みの中での学習では効率化が進むが、やがてロックイン現象により衰退傾向（シングルグループ学習）となり、暗黙知は移転しにくく、フェース・トゥ・フェースが必要（情報粘着型）となる。

- ・ イノベーション競争

競争がなくなると集団思考が働き、新しいアイデアが抑圧される。

持続的イノベーションと破壊的イノベーションの競争 イノベーションのジレンマ。

- ・ 「場」があること

場とネットワークの重層的構造としての地域。

9. 図書館クラスターにおける関連学説

経営戦略論・組織論・ネットワーク論・イノベーション論・技術論・人事管理論

まとめ

(1) 図書館クラスターとは

- ・一定の分野で、相互に関連する図書館と機関が一定地域に集積
- ・競争しつつ協調している
- ・シナジー効果が発揮されている

↑

(3) クラスターの形成を促す要因

- ・地域独自野資源
- ・厳しい需要条件
- ・革新的事業がある

(2) 図書館クラスターの効果

- ・生産性の向上
- ・イノベーションの誘発
(新規事業やベンチャー創造を含む)

(4) クラスターを活性化する要因

- ・学習が存在する
- ・イノベーション競争
- ・「場」があること関連・支援産業の存在

○学習のベースとなる図書館クラスターのモデルを作る

- ・ゲートキーパーの役割を担うネットワーク型「革新的事業」が活動し易い環境をつくる。
- ・すぐれたクラスターの事例を評価し、学習のモデルにする。

○共通のインフラをつくり、クラスター活性化の流れをつくる

- ・教育・訓練プログラム、技術開発など共通のソフト・インフラをつくることによってクラスター共有のプラットフォーム・ホームができ、クラスターの活性化の「学習」を促進する。

○「場」づくりの推進

- ・わが国では大学、企業、官庁のドミナントロジックが極端に異なり、文化的差異が大きいため、「場」の形成が特に重要。
- ・「場」を創造するアントレプレナー（起業家）を支援する。

以上